



晴 | 雨 | 計

きょうはバレンタイン。恐怖の日である。「義理」という名前のチョコレートまで売られている昨今、バレンタインは豊かさの中のお遊びと軽く受け止めればよいものであろう。

しかし四十代半ばの中年男にとってはお遊びと簡単に受け止め切れない面がある。年々もろろチョコレートの数が減ってくれば「もてなくなつたな」と寂しくなるし、ほかの中年男と比べて少なければ「おれって人気

ないのか」と気になる。また、あまりにも明白な義理チョコだと興ざめた

見知りになつたりしたらお互い極めてバツが悪い。隣で若い男性が高そうな品物を堂々とまじめ買ひなごしているのを見る

わがバレンタイン考

しているとは思いつつも愛にダギマギしてしまひ(も)つとも、このくたよりは想像による(さ)らに問題なのは一カ月後のホワイトデーである。女性名のメモ(それほどの数はないが…)片手にデパートをうろつくのは本当に気恥ずかしいし、まして顔

ってバレンタインは恐怖の日なのであります。こんな経験を毎年してきていると、バレンタイン騒動にもその時々時代がみえるような気がする。最近結婚しない女と結婚できない男という女性のパワーアップの風潮が反映してい

平山 征夫 (日本銀行 新潟支店長)

るのではと思つ。ならば一層のこと、逆に気弱な男性のプロポーズの機会にしてあげてはと考えるのは私だけだろうか。果たして今年はどうなバレンタイン風景がみられるのだろうか。ついでに景気の動向を占う動きもみられるかもしれないと思つのは、当方の職業病か?

本当は書くのはよそつかと思つたのだが、バレンタインを前に東京の男の友人からハートのケース入りチョコが届いた。あいつ何を考えているのかと思いつつ、今年の実績にこの分はもちろんカウントしないことにした。

「晴雨計・その後」②

「わがバレンタイン考」

平山征夫

五月である。五月のことを「春と夏がデュエットする月」と表現した人がいたが言い得て妙である。もっとも今年は気温の上下動が激しく、デュエットがハモらないので、中古品の我が体のサーモスタットは毀れそうだ。その五月に古稀のバレンタイン者を書くのも妙だが、二十四年前の随想をなぞるルールだから仕方ない。

命チヨコ」と「義理チヨコ」が主体だったのが、「友チヨコ」や「自分チヨコ」が結構増えているし、気の弱い男性のプロポーズのチャンスにするべきという二十四年前の私の提案である。「逆チヨコ」も少しはあるようだ。今日、人口問題が深刻であるが、知事時代県で「逆チヨコ」運動をやっておけばよかったかと少々悔やんでいる。

とすれば、事態は一層深刻だ。我がことを申し上げれば、知事就任と共にバレンタインは「恐怖の日」では全くなくなってしまった。知名度の一挙上昇で知事公舎前に受付でも用意しなければならぬかと一瞬思ったのは大きな見間違い。仕事柄「義理チヨコ」を呉れるような女性との接触が殆どないうえ、公選法上金品の授受は控えなければならぬからだ。一度、仙台時代通っていたスナックのマからチヨコが届いたので、勇んで開けてみたら「これは義理ではありません。情けです」と書いたメモが入っていた。知事退任後は若干の回復は見えているが、当方が軽い糖尿病になった

ため、貰っても原則すべて我が妻に報告、管理となって仕舞った。これではバレンタインに伴う若干の胸のときめきなど味わう余地なしだ。尤も隠居の身分になれば最後に残る(?)のは妻からのチヨコだけだろう。本来の趣旨から一番かけ離れたもので、これは「腐れ縁チヨコ」だ。

今回も書くのは止そうかと思ったが、今年九十二歳の“おばあちやま”からチヨコを頂いた。勿論我がバレンタイン歴のギネス更新である。来年は逆の更新を期待しつつ、当然これは今年の実績にカウントした。